

第5期 令和4年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第4回全体会 議事概要

日 時 令和4年5月27日（金）

場 所 新宿区役所本庁舎5階 大会議室

出席委員 毛受委員、稲葉委員、小林委員、郭委員、長谷部委員、岡田委員、松田委員、李委員、金（勲）委員、奥田委員、センブ委員、ドゥラ委員、江副委員、鈴木委員、盛委員、安藤委員、陳委員、タイン委員、原田委員、本多委員、山口委員、守重委員、伊藤委員、内田委員 24名

欠席委員 申委員、レックス委員、ブサン委員、朴委員、金子委員、國谷委員、井上委員 7名

1 開会

2 議事

(1) 「新たな外国人住民の受入れに関する部会」のまとめについて

・日本の文化に対して興味を持っている外国人に地域センター等のイベントに参加してもらうのいいのではないかと。また、地域センター祭りに参加してもらうのもいいのではないかと。

・母国のフェスタで日本人と非常に交流ができたので、コミュニティと連携しながら、外国人が開催するイベントに日本人も参加できるように声掛けをする。

・コロナによって地域のコミュニティが壊れており、元の状態に戻すには時間が非常にかかる。住民だけでなく、行政にも関わってもらう必要がある。

・外国人が地域活動に参加しにくい現状がある。

・区役所に来庁した外国人にアンケートを取り、ニーズを把握して区側から適切な情報を提供したりアプローチするなどができればいい。

・住民登録の機会は貴重だが、限られた時間で全てを把握することは難しいので、アンケートや書面、メールや電話などで後からフォローできる仕組みがあるといい。

・情報が多く必要な情報がわかりにくいので、どの情報を誰にいつ提供するかを考えていく必要がある。

・区役所としんじゅく多文化共生プラザをメインとサブの関係ではなく、一つのものとして融合していく（できればプラザは区役所内にあった方がよい）。

・相談内容は貴重な基本データであり、統計をとることが重要である。

(2) 「外国人の地域での生活に関する部会」のまとめについて

・様々な問題があるが、それを全て一気に解決することは難しいので、1つずつ絞って解決していく必要がある。

・日本の住み方についての基礎作りが大事。留学生に重点を置き、留学生を地域のコミュニティや地域に住む人につなげ、日本の文化を教えてあげたりするのはどうか。留学生にとっては日本の住み方についての基礎が作れるし、教える側にとっては相手の国を理解することができるので双方にとってよい。

・区主催のイベントを企画し、その中に各国のブースや法律などの相談ができるブースを設けること

で、日本人と外国人、また外国人と相談先をつなげる機会を作る。併せてその場でアンケートを取ることでニーズを把握する。

- ・コミュニティの情報を区に上げてもらい、区から日本語学校等に提供してほしい。
- ・日本人と外国人と一緒に地域を作り上げていくことが大事。
- ・本当に困ったことがあると1人で悩んでしまう。最近では人生に数回しかない経験（出産や交通事故、死亡した時など）で困る人も増えている。しかし困ったときの相談先がわからない場合が多い。
- ・ニーズに合わせたサービスが大切。
- ・発達について悩んでいる親が多い。外国人の場合、日本人よりも背景が複雑なため原因が発達にあるのか言語環境にあるのかもわかりづらい。そういう親のために教育相談の存在を多言語で知らせてあげる必要がある。
- ・言語的な面で問題を抱える子どもに対して対応が手薄になっているので、専門家の人を呼んで十分に対応できるようにする必要がある。

(3) 提言について

- ・町会長が集まる会議等に参加して外国人との生活の仕方を説明する。また、それを継続的に行う。
- ・行政の力を使って大きな外国に関するイベント（ベトナムフェスティバルや新大久保フェスなど）を開催すると、日本人も外国人も積極的に参加し交流することができるのではないかと。また、個人や企業が行っている小さいイベントは区と連携し、継続的に行うことで、コミュニティや行政、個人がつながることができるのではないかと。
- ・新宿区庁内で多文化という意識・認識を共有することが必要。
- ・地域社会は単に人の集合体ではなく、そこに結びつきや関係がなくてはならない。
- ・SNSやICTを活用した現代に即した新しいコミュニティを創生していく必要がある。
- ・LINEグループなどを作り参加してもらうことで、参加した人が情報発信しなくても、そういったものに繋がっているという安心感が生まれるし、いざというときに発信することもできる。

3 次回の日程

令和4年7月8日(金)

4 閉会